

第4回「淡路島総合観光戦略策定会議」議事要旨

日時：令和5年1月24日（火） 13：30～15：00

場所：兵庫県洲本総合庁舎5階 多目的ホール

出席者：宗田委員、相野委員、琴井谷委員、赤穂委員、津田委員、雨堤委員、木崎委員、正木委員、鎌田委員、井壺委員、田中委員、川越委員、山下委員（代理：西岡氏）、守本委員、山下委員、勝見委員、江崎委員

議事要旨

事務局から第3回淡路島観光戦略策定会議（11/25）における修正意見への対応、第3回淡路島観光戦略会議（12/14）における意見への対応、KPIの設定指標と目標値について説明し、座長、委員による意見交換を実施

【(1)第3回淡路島総合観光戦略策定会議（11/25）における修正意見への対応】

【(2)第3回淡路島観光戦略会議（12/14）における意見への対応】について

【座長】

- ・明石海峡大橋の開通以降どう変化したかがわかるように書き加えていただき、淡路島の観光地としての変化がわかりやすく示されている。

【委員】

- ・様々な意見を盛り込んだ戦略になっている。宿泊施設が足りない、人手が足りない状況が続いており、大きな課題となっている。これに対する戦略が立てられればと思う。

【座長】

- ・全県の戦略会議でも、外国人、転職者などの話が出ている。技能実習生制度をはじめ、いろいろ考えないといけない。
事務局ではどう捉えているか。

【事務局】

- ・淡路島の有効求人倍率が高い。その中で、外国人労働者、セカンドキャリアなどを活かす方法などを考えている。アクションプランで、バックヤードで働く外国人に接客をしていただくようなことが出来ないか考えている。

【座長】

- ・実態を把握し、対策することが重要。
- ・交通の便がとてもよくなっている。大学生が神戸市などからもバイトに来られない距離ではない。大都市隣接観光地にかわってきたことが、地元はどう捉えられているか。

【委員】

- ・ただ外国人を呼ぶというだけでは来ない。宿泊施設の働き方改革を合わせてやらないと解決にならない。

【座長】

- ・島内で活躍する企業の方で取り組んでもらう必要がある。

【委員】

- ・今まで淡路島が、取り組んできた結果の戦略と感じられる。
- ・首都圏、インバウンド、富裕層の取組、大阪からの海上交通、島内2次交通などが課題と考えている。
- ・先週関空にいったが、インバウンドは戻ってきている。淡路島へのインバウンド誘客を具体的に取り組んでいきたい。

【座長】

- ・インバウンドは、今年度後半から戻ってきている。

【委員】

- ・通して読んだ感想は、ネガティブな感じがして、これからやろうという感じにならない。今回7P~の追加は、戦略会議の意見を反映したものだと思うが、もう少し、現行戦略でやったことをしっかり記載できないか。現行戦略を実行した評価として、しっかり記載してほしい。また、「概観」という表現は違和感があるため、しっかり取り組んできたことに対する評価と表現した方がよいのでは。
- ・再訪意向が高い淡路島のところは、こういうことだから再訪意向が高い、とすべきでは。食に対しても、ブランディングしてきたこと、取組を書いた方がいい。銅鐸は災害による発見ではないため、「災害等により」は削除してほしい。
- ・19Pの島外資本の積極的な進出の表現はこれでよいのか、ネガティブな印象を受けないか。淡路島のポテンシャルや魅力があることに島外の人も気づいて進出してきていると思う。積極的な参入は、行政としてはウェルカムなので、一緒に淡路島を盛り上げていくことが大切。

【座長】

- ・そもそも危機意識から出発しており、内と外の関係（島内資本・島外資本、外国人と日本人、近畿圏と首都圏など）についても3市で微妙に温度感が違う。この温度感の違いは今後も続くと思うが、それを乗り越えてやっていく必要がある。

【(3) K P I の設定指標と目標値（案）】

【委員】

- ・ K P I、概ねよい方向に設定されているのではないか。

【委員】

- ・ 5年後の K P I 比率が 17%と設定されており、全体の G D P は、2019 年から伸びないことになっているが、それでよいのか。5年後に観光産業の G D P が増えて、全体の G D P が変わらないということになると他の産業は減少するということになる。観光だけ成長すればよいという数値はおかしい。他の産業が減少することを前提とした K P I 設定は認められない。

【事務局】

- ・ コロナ禍の数値が未発表であり、まずはコロナ禍の前に戻ることが重要と考えている。全体の G D P の成長率等が不明なため、現在の数値を設定したが、再度検討したい。

【委員】

- ・ 最大の課題は雇用確保。確保した人材の住居もないというのを、市役所と一緒に解決していこうとしている。外国人、首都圏、関西の顧客をどう呼び込むのかを、企業と連携して進めることを考えている。社会増は、淡路市ではまかないきれないので、洲本市にも及んでいると思う。
- ・ 県国際交流協会が島内の外国人の就労促進に取り組んでいる。淡路市：495名、洲本市394名、南あわじ市：625名の外国人登録者がいる(令和4年12月末現在)。今後は、ベトナム以外にも、バングラデシュなどから人が入ってくるため、就労促進を進めていきたい。時給も上がってきており、観光だけではなく、各事業所の取組が必要。

【座長】

- ・ 移民の多い欧州などは、農業、町工場の順に外国人の就労が進んだ。日本でも、避けて通れないだろう。

【委員】

- ・ KPI 数値は妥当ではないか。
- ・ 心配するのは、数値ありきで、いろんな開発が乱発してしまうことで、淡路島に本当に来てもらう理由を大事にした開発が必要である。

【委員】

- ・ 福良に新たなホテルができたが、求人の際の賃金が高くなっている。個人でやっている事業者等からは、賃金が高いと採算が合わないという話を聞いている。人材不足によりお客様がたくさん来ているのに、迎え入れられない事業者がいる。南あわじ市は、1次産業から3次産業までバランス良くできているが、各事業者で業績があがらないと賃金があがらない。観光客がお金を落とすことにより地場産業が活性化することを願っている。

【座長】

- ・ 6次産業化の取組が必要であると思う。

【委員】

- ・ 島内の企業でも人材確保は、島外で募集かけて淡路島で雇用していることが多い。
- ・ DXの内容が薄いように感じるが、これでよいか。

【事務局】

- ・ デジタルは、やらないといけないと考えている。現段階では、具体的に何に取り組むかが決められていないので、このような書き方になっている。

【座長】

- ・ 兵庫県、観光庁、文科省等のDXに関する講座は、たくさん計画されている。今後、核団体等で講座を開くのであれば、協力するのと言ってほしい。

【委員】

- ・ 戦略はよくできていると思う。推進体制と検証体制が記載されていることがよい。

【委員】

- ・ 食は大切なので、農業、漁業がさらに盛んになっていかないといけない。飲食店は増えているが、個人でやっている店舗が増えており、スタッフを雇用するほどの規模ではない。副業をしないと成り立たないケースもあり、うまくいっていない現状もある。

【委員】

- ・民間に投資してもらうためには、GDPだけではなく、質と量がわかる形の目標が必要ではないか。人数目標等の数値を把握して、官民で進めていくべき。

【委員】

- ・バスの運転手不足が深刻。
- ・南あわじ市と連携した実証事業等を実施している。以前は、高速バス3社で競争していたが、コロナ禍になって協調路線となった。お互いに生き残るために連携して取り組みを進めている。

【委員】

- ・消費単価と域内調達率の調査は、調査後に目標を考えるのか、それとも、現時点で、調査結果の何%という決め方か。

【事務局】

- ・現時点ではデータないので、調査してから観光戦略会議で決める。

【委員】

- ・今までやってきたことは、ダメなことが多いという印象を受ける。今まで取り組んできたことを評価し、それを踏まえて記載してほしい。良いところを踏まえて、今後どうするかという記載にする必要がある。
- ・例えば、評価では、淡路島観光協会が京都の祇園祭に合わせ、長年にわたり「はも道中」を実施し、現在では祇園祭の一連の行事として、淡路島の「はも」の知名度を上げたことなどを記載すべきではないか。
- ・島外資本についてもよその扱いのような印象を与えないか。

【座長】

- ・はも道中は確かに京都でも定着している。

【事務局】

- ・ネガティブに入っているのではなく、現行戦略の目標数値に達していない事実を記載しているため、厳しく見えてしまう。戦略会議の意見もあり、成果についても記載している。
- ・島外資本について、よその扱いしているつもりはない。今後は連携が必要と考えており、観光戦略への理解していただくことも必要であると考えている。

【座長】

- ・淡路島は、県内でも、観光の伸びしろが大きい。神戸に隣接する観光地となっており、資本投下も進んでいる。大きな転換期にある淡路島の観光戦略であり、3市と県が一体となって進めていくことが重要。
- ・その他、ご意見等あれば事務局までご連絡ください。アクションプランについては、事務局でとりまとめをよろしくお願いいたします。

以上